

組織的な対応ができていますか？

～上越市のいじめの現状と対応について～

いじめ認知の件数は、全国、新潟県ともに令和元年度までは増加傾向でしたが、令和2年度は全国、新潟県ともに全校種で減少しました。上越市の令和2年度は、中学校では減少しましたが小学校では増加し、令和3年度は小学校、中学校ともに増加しました。

いじめは、重大な人権侵害です。発見できていないいじめがある可能性も考慮し、学校、家庭、地域が一丸となり、社会全体で「いじめをしない、許さない、見逃さない」意識をますます高めていく必要があります。

○「いじめ」の定義について、再確認を！！

「いじめ」の捉えで重視しているのは、「本人の被害感」です。受け取る側が嫌な気持ちになれば、それは「いじめ」です。私たち大人が、いじめの定義を正しく理解することは、子どもたちへの指導の基本です。新潟県いじめ対策ポータルサイトから、「正しいいじめ認知のためのチェックリスト問題」等を使って更に理解を深めてください。

○「いじめ類似行為」について、知っていますか？

令和2年12月25日に「新潟県いじめ等の対策に関する条例」ができました。ここでは新たに「いじめ類似行為」が追加されています。この「いじめ類似行為」とは、当該児童等が当該行為を知ったときに心身の苦痛を感じる蓋然性（多分そうなるだろうという可能性の程度）の高いものをいいます。また、保護者は「学校が講ずるいじめ等の対策に協力するものとする」として「保護者の責務」が明記されました。

○いじめ対応の問題点と注意は？（市内事例から）

問題点① いじめと思われる事案に対し、担任がいじめの定義を正しく理解していなかったり、一人で抱え込んで管理職等への相談が遅れたりした。

問題点② 被害者からの丁寧な事実確認や心に寄り添った対応、加害者の気持ちを理解した上での指導が不十分だった。

いじめの対応として注意してほしいのは、「安易な解消としない（3か月の経過観察は必要）」「謝罪までの道のりを慎重にする（互いの納得が必要）」の二つです。そのためには、組織的な対応ができるよう自校の体制を見直し、日頃からのコミュニケーションを大切にして、風通しの良い職員同士の関係を築いていきましょう。

教育委員会では、解決が困難な事案に対し、学校が主体的に対応していけるように、JASTを核として関係機関と連携し、支援していきます。

（担当 学校教育課指導主事 小山）

教育センターの
ホームページの
QRコードです。
ご活用ください。



～GIGAスクール～

“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも”
活かせる1人1台端末



上越市では、令和3年4月よりGIGAスクール構想による1人1台端末の利用が始まりました。

1年目は、これまでの学習や活動の中で利用していたものを、デジタルに置き換える試行錯誤からスタートしました。ホワイトボードや付箋紙をデジタル付箋の機能を持つジャムボード (Jamboard) に置き換える、観察シートへの記入を絵と文字の組み合わせから画像とペイント機能の組み合わせに置き換える、という具合です。毎朝の健康観察に Google フォームを利用している学校もあります。

右図は、令和3年12月に文部科学省の初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチームが示した「学校や家庭における1人1台端末を活用した1日の流れの一例」です。1人1台端末の利活用推進を支援するためのWebサイト「StuDX Style」に紹介されている優良事例を整理した資料となっています。学校と家庭で、学習や特別活動で、校務で、子どもや教師がどのように利活用しているか、上越市教育センター研修会で発表された市内各校や Gpro の先生方の活用事例を資料に合わせて紹介します。

教育の情報化は、教師の働き方改革の一助となります。2年目の今年度は、学校でも家庭でも1人1台端末とクラウドを組み合わせたICT活用を推進していきましょう。

参考：
「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の現状について」令和3年12月 初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチーム
「Webサイト StuDX Style」(慣れるつながる活用)
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/index.html>
「全国の学校における働き方改革事例」
令和3年3月 文部科学省

(担当 学校教育課指導主事 壘)

StuDX Style に掲載されている事例から考えられる、学校や家庭における1人1台端末を活用した1日の流れの一例



短時間の積み重ねでスキルアップ (春日新田小:吉田教諭)

情報活用能力の一つであるキーボード入力スキルを向上させることが、ICT活用や今後のコンピュータを利用した学力テストの導入に欠かせません。ブラウザ上で無償利用できるタイピングソフト (キーボード) のアカウントを取得し、朝学習や隙間の時間等に練習を重ねました。4年生を担当する吉田教諭は、「1分で50文字入力」を目標に取り組んだそうです。

上教大のICTにかかわる支援プロジェクトにおいてもキーボード入力の練習が多く取り入れられています。



付箋操作のオンライン化 (保倉小:木村教諭)

背景に画像を貼り付けたデジタルホワイトボードを班に1つ準備し、気付いたことを書き出したり、友達と共同編集しながら情報を整理したりしました。デジタル化により子どもからの書き込みの量が増え、子ども同士で意見を深めることができました。木村教諭は、子どもからのアウトプットが増えることで、教師の説明が減り、子ども同士で意見を深めることにつながったと感じたそうです。考えの共有にクラウド活用が効果的です。

授業録

子どものOUTPUT量↑

教師の説明が減った 子ども同士で意見を深めやすい 時短

← 画像やチャート図を背景に設定して利用できる

振り返りカードのオンライン化 (潮陵中:山岸教諭)

Google クラスルームによる配信により、家からでも振り返りの入力や確認ができます。印刷・配る・集めるなどの作業が削減されるだけでなく、教師は児童生徒の取組状況をいつでも確認でき、コメント機能を使って評価や支援を行うことができます。山岸教諭は生徒が単元のゴールに向けて自己調整する過程を大切にするために、過去の記述と比較しやすい書式となるよう工夫したそうです。また、「テキストマイニング」というツールを活用し、使用頻度の高いキーワードを顕在化させ、学びを振り返ることも効果的です。

← 過去の記述を振り返って記述できる

10月28日 受け身の文法を覚えられるように思い出しやすく リクエスト欄
も調べたりして備えておきたいです。自分は、質問をして、その後のアンサーへの受け答えが多分十分にできないと思うので、色々な答えかたの学習をしたいです。

11月19日 10月28日の感想を見ると、質問後の受け答えができなそうと書いてありましたが、そのほかのことにも気をくばりながら何個かの目標に向かっていっている時間を使い、練習をすることができていたと思いました。①

部活動連絡のオンライン化 (城西中)

Google クラスルームによる掲示板機能を活用することによって、生徒が端末を確認すれば、いつでもどこでも連絡事項を見られるようになります。教師にとっては電話連絡や印刷作業がなくなり業務軽減に繋がります。

城西中では、感染防止対策のための部活動休止期間に、家庭でできるトレーニング法を配信したり、部員各自の取組を紹介し合ったりして、情報共有しました。

学校代表アカウントでクラスルームを作成し、活用してください。

9月2日 (最終編集:9月3日)
9/3の自主練習内容を紹介します!
コメントに練習内容を添付せずドンドンいってください。

9月6日
20秒補強3セット 15分ジョグ

懇談会のオンライン化 (上下浜小)

対面での実施が困難な場合にも、Google meet を利用してオンラインで、学校の保護者会や各種説明会を実施することができます。

上下浜小では、コロナ禍の開催となった学年懇談会をオンラインで実施しました。

今後、対面かオンラインかを保護者に選択いただくことで、都合に合わせた情報提供も可能です。

「ピアサポート」 授業づくり事業！

この事業は、授業改善のヒントとなる授業を動画に撮り、限定公開ページ（下記）にアップし随時閲覧して学び合い、授業づくりに生かす取組です。授業の動画をただ今、募集中です。

導入を工夫して子どもを引き付ける、課題設定が面白い、こんな教材を使ってみた、実験装置を工夫した、授業公開をするのでこの機会に見てほしい等々、授業づくりに一工夫される先生方、自薦・他薦を問いません。撮影に伺いますので、ご一報をお待ちしています。

連絡先 教育センター指導主事 品田
Mail:yayoi519@jorne.or.jp TEL 545-9247



上越市立教育センター

ピアサポ

只今**準備中**です。
今しばらく
お待ちください。

上越市消費生活センターからのお知らせ



消費者庁 消費者ホットライン188イメージキャラクター
「イヤヤン」

一緒に悩みを
解決しましょう！



近年スマートフォン等の急速な普及により若年層を狙う悪質商法等の手口が巧妙化しており、小・中学生の消費者被害が増えています。

不登校等で部屋に引きこもった児童・生徒が大人の目の届かないところでオンラインゲームに夢中になり高額な課金をしていたことが判明した等、保護者からの相談が寄せられた場合は消費生活センターをご案内してください。相談の秘密は固守します。

困ったときは、
消費者ホットライン
☎188にご相談を！
最寄りの相談窓口
電話につながります

上越市消費生活センター
上越市木田1丁目1番3号 上越市役所第1庁舎1階
相談日：月曜日～金曜日（祝日・年末年始は休み）
相談時間：午前8時30分～午後5時15分
相談専用ダイヤル 電話025-525-1905



多様な性の子どもたち ～性的マイノリティの相談より～

性は、身体の性（生物学的な特徴から判断された性）、心の性（自認する性）、社会的性・表現する性（服装、髪型など自分を表現する性）、恋愛対象の性などがあり、それぞれがグラデーションになっていて、性の在り方は人それぞれです。このような多様性のある性について、子どもたちから相談を受けることがあります。

例えば、「自分は女だけれど、女と思われたくない。服装や言葉遣いを男っぽくしたい」「制服のスカートをはきたくない」「『私』は女言葉なので使いたくない」と悩んでいた子。「好きだと伝えたら気持ち悪いと言われた。女が女の人を好きになるって変ですか」と泣きながら尋ねてきた子。「見られるのが嫌だから、学校ではトイレに行かない。学校のトイレもコンビニみたいに男女共通の個室ならいいのに」とため息交じりに話をしていた子。「女みたいと言われるけれど、インターネットで調べたら、自分はXジェンダーだと思う」と淡々と語った子。性的指向や性自認、性別表現に悩み、苦しむ子どもたちは少なくないと感じます。

性自認についての違和感が幼児期からあったという人もいることから、様々な機会を捉えて、多様性のある性についての対応や啓発の必要性を感じます。互いに尊重し合い、誰もが自分らしく生きられる学校や社会を目指していくために、一人一人が当事者意識をもち、性的マイノリティに対する理解を深めていきましょう。



（ 教育相談部より ）